

令和4年度 大阪府立旭高等学校 第2回学校運営協議会

日時：令和4年11月18日（金）15時30分～17時00分

場所：本校会議室

出席者：学校運営協議会委員 森 勇太 梅原直人 上江洲弥生 佐藤章子 原田沙織

本校より校長 教頭 事務長 首席2名 教員9名

校長より

今年度は、ほぼ予定通り行事が実施出来ている。11月15日(火)の2年生スピーチコンテスト、17日(木)の1年生レシテーションコンテストは、いずれも堂々とパフォーマンスができていた。また、同じく17日には、「総合的な探究」について関西学院大学の時任先生をお招きし、職員研修を実施した。国際文化科では、韓国の高校とオンラインによる交流を今年度も続けている。本日は、見学いただいた授業についてもご意見をいただきたい。

会長より

大学としては、大学の設備や教員を利用して高校と連携しようとしているが、高校とのニーズの違いがありなかなか難しい面があると感じている。

委員より

生徒の元気な様子に安心した。旭の生徒の柔らかい雰囲気を楽しんで見ることが出来た。進学に向けて大変な時期だが、残り少ない高校生活を楽しんで欲しい。

各分掌の現状報告取り組み

[教 務 部] 教育課程（1年生から新教育課程）・教科書採択について報告

[進路指導部] 進路指導関係諸行事について報告

[生活指導部] 今年度は各行事ができたこと、遅刻・欠席が昨年より増えていることを報告

[保 健 部] 保健室来室状況と分析、委員会活動を報告

[図書教養部] 今年度の国際交流（オンライン交流）、留学生、交流行事の報告、ニューズレター（国際交流広報誌）について報告 ※ニューズレターは旭友会の会費を活用して発行している。

[情 報 部] オンラインによる学習支援を実施。授業動画を撮影し配信している。

[第3学年] 新型コロナの影響で入学式ができなかった。卒業式は門出を祝ってやりたい。

[第2学年] 10月に修学旅行を無事実施できた。行先は壱岐、長崎。生徒たちはいきいきと活動できていた。車椅子ダンスと講演会が体育館で行われた。代表の方は、旭の生徒を、まなざしが温かく鑑賞の様子が素晴らしいと絶賛してくださった。この会は文化庁芸術家派遣の一環である。

[第1学年] 教育課程が抜本的に変更された学年である。生徒は明るくやっている。2学期の行事にはいずれも一生懸命取り組んだ。幼い点も感じられるが、主体的に取り組めるよう成長してほしい。

協議と提言

授業見学から

・驚いた。以前よりスライドの内容が充実している。生徒も普通についていっている。先生の軽妙な語り口が面白かった。自分も学生にパワーポイントを送っているが、旭生もうまく使っている。大学の授業に近くなっていると感じた。

・プリントが生徒にわかりやすく工夫されている。授業中の基本的な指示が素晴らしい。温かいことばかけが多く嬉しく感じた。アウトプットの場面がさらにあればよい。

・古典に出てくるものは、教科書の絵ではわかりにくいかもしれない。

・廊下掲示物、美術作品が素晴らしい。心情がわかるような作品である。（書道作品では）顔真卿は王羲之よりも心の動きがわかる書なので、深い指導をされていると感じた。

・当たり前のことが当たり前に行われていることが嬉しく素晴らしい。

→芸術科の教員が3名とも教諭である学校は少なく宝です。オープンスクールが近いこともあるが、普段からたくさん掲示している。

→書道、美術に加えて音楽ではバイオリンを体験できている。箱から丁寧に出し、大切にしまうことも学ぶ。芸術の授業ではいろいろと体験できることが素晴らしい点である。

→歌うことに代わるものとして、バイオリンを借りて授業。意外と生徒はうまく弾ける！歌は制限をしながら歌っている。

・テレビの講座のように感じた。おもわず答えたくなる。みな集中していた。机が狭そう。

・高校時代に自身も習った古典だった。文章だけではわかりにくいかも。

・校内を移動している際、車椅子ダンスについてのポスターがあり興味を持った。体験もあったのか。

→ダンスは健常者と共に踊る。体験談、車椅子体験もあった。

→車椅子ダンスのパフォーマンスと、人生についての話を講演していただいた。生徒はみな深く考えていた。こうした色々な体験をすることが良いと感じた。

報告から

・一番気になることは、遅刻、保健室利用が増えていること。

→欠席連絡が、電話からオンラインフォームになったことも影響しているかも。

・コロナ感染症による社会状況の変化も背景にあるのでは。

・オンライン授業が可能になり、課題が多く、生徒たちにはかえって負担が多いのではないかと感じる。旭高校ではどうか。

→授業中は、一時間ずっとではなく、小テストなどで部分的にICT機器を使用している教員が多い。

→課題については、パフォーマンス課題が増えたことでたいへんな時期もあるかも知れないが、アンケートによれば家庭学習時間は非常に少ない。

→家庭学習時間は、入学後だんだん少なくなる傾向があり、なかなか伸びていかない。

・報告にあった生徒状況のうち、1年生からの報告にある「幼い」という点が気になる。

→距離感が気になる。これから必要な距離の取り方を知る必要を感じる。（1年）

→絶妙な距離を保てることが旭の生徒の良いところだと感じている。（3年）

・息子が在校中に言っていたことだが、旭は、先生とは話しやすく、親ではない良き相談相手として感じていて、授業以外での関係性が良かったようだ。それは旭高校の学校の雰囲気としていい面だ。

スクールミッション案について

校長より

中学生にわかりやすい表現を意識して作成した。校訓をもとに作成し、地域連携のとりやすい立地、高大連携していることなども加味した。ご意見をいただきたい。

- ・「チームで働く力」「考え抜く力」「前に踏み出す力」とは。
→経済産業省が打ち出した「社会人基礎力」から引用している。学校経営計画にも入れている。1人ではなく仲間たちと頑張れる生徒たちであり、そうした力を発展させたい。
- ・教育の方針の部分で「進路実現」という表現は、大学進学のことだけをめざしているように捉える人がいるかもしれないと危惧する。
→検討します。ありがとうございました。

- ・これで協議を終わります。

教頭より

これまで、学校への意見書はありませんでした。

校長より

改めて、遅刻や保健室の状況のことなど、本校の課題と同時に、生徒の良い点が確認できた。教員は生徒から元気をもたらしている。旭高校で生徒の力を伸ばせるよう、今後も取り組んでいきたい。